

水害備える技、高校生ら800人が学ぶ 益田市の高津川で水防演習

高田 純一 2025年5月29日 10時15分



土嚢をつくる益田翔陽高校の生徒ら=2025年5月24日午前10時21分、島根県益田市高津、高田純一撮影 



島根県 益田市 の高津川河川敷で24日、総合水防演習があった。当日は大雨のなか、流域の1市2町の 消防団員 や地域住民ら約800人が参加。高校生や看護学生らも身近で使える水防技術を学び、水害への備えを確かめた。

演習は、中国5県を流れる13の1級河川のうち、浸水 被害や水害リスクに備えるため、主要河川で持ち回りで例年開催している。台風が接近し、高津川流域に 洪水警報 が発表されて、1997年の洪水を上回る水位で堤防決壊の恐れがある、との想定で訓練が始まった。

国土交通省 の浜田河川国道事務所長がホットラインで益田市長に電話をかけ、「高津川が氾濫(はんらん)危険水位を超えた」と情報共有し、避難指示を発令した。

地元の高校生や看護学生、スーパーの従業員はスコップで土砂を袋に入れる土嚢(どろう)づくりや、水難時に流されないようロープで体を結ぶ方法を学んだ。

益田翔陽高校3年生の村田大知さん(17)は12年前、自宅のある 津和野 町で津和野川支流の名賀(なよし)川が氾濫した記憶がいまだに残る。「今日の雨の比じゃなかった。激しい雨音が続き恐ろしかった。今回の経験を、いざというときに役立てたい」と話した。